

日本近海の絶滅のおそれのあるサメ

アカシュモクザメ

IUCN レッドリストより抜粋・翻訳

学名 : *Sphyma Lewini*

英名 : Scalloped Hammerhead

レッドリストのカテゴリー : 絶滅危惧 IB 類 (EN) A2bd+4bd Ver3.1

評価年 : 2007

レッドリスト掲載の理由 :

アカシュモクザメは、沿岸および半大洋性のシュモクザメで、沿岸の温帶、熱帶海域では海表面付近や間潮帶から 275m 近い深さまで、世界中どこにも見られる。このように分布域は広いが、遺伝子的にいくつもの亜集団のあることがわかっている。生育のどの段階もこの種を対象とする漁業あるいは混獲の害を被りやすい。

多くの幼魚が沿岸域でのさまざまな漁法で捕獲され、成魚は大陸棚や沖合ではえ縄、刺し網漁で捕えられる。群れ同士が離れており、集まる習性があるため、大きな群れは危険が大きい。ほとんど枯渇に瀕している状態でさえ群れあたりの捕獲数量 (CPUE) が高くなる。

シュモクザメのひれは他のサメに比べて価値が高いので、いくつかの地方ではそれを狙った漁が増えてきている。捕獲のデータが得られているところでは、かなり顕著な減少の記録がみられる。アカシュモクザメ自体とシュモクザメ類 (*Sphyma SPP*) の連結データは、南アフリカ、北西・西中部大西洋、ブラジル等の海域で 32 年間に 50–90% も減少したことを示している。漁師からの聞き取り調査でも減少傾向がうかがえる。

この種は、他の大型のサメと比べると多産ではあるが（仔の数は 12–38）メキシコ湾では生殖期間が 15 年以上であり、またその生活史の特色は、乱獲からの回復力が比較的弱いことを意味する。

生息数の傾向 : 未解明

生息域と生態 : この種は沿岸および半大洋の、遊泳性のサメで、大陸・島嶼棚とその近くの深海で見られ、深度の範囲は間潮域や海面から、少なくとも 275m 程度である (Compagno in prep.)。幼魚は沿岸域の海底付近にとどまる傾向があり、夏季には河口や湾内に集中することが多い (Clark 1971, Bass 他, 1975, Castro 1983)。また、日周的にある決まった場所に集まること (Holland 他, 1993) や、夏季にはしばしば大きな群れになって高緯度を回遊すること (Stevens & Lyle 1989) が観察されている。

このサメは成長するに従って、内海でも外洋でも水平回遊がみられる。性別の群れに分かれ、メスはオスよりも早く、サイズがより小さいうちに沖合いで回遊する。メキシコ湾やオーストラリア北部では、1m 以下のオスが大陸棚で多く見られ、メスは 1.5m より大きいものが大陸棚の外縁部に多い。成魚になるとたいていは沖合いの中深度のあたりで過ごし、メスは出産のために沿岸部に回遊する (Clark 1971, Bass 他, 1975, Kimley & Nelson 1984, Branstetter 1987, Ki,ley

1987, Chen 他 1988, Stevens & Lyle 1989)。成魚は沖合いにいるが、子育てのエリアは浅い内海域にみられる (Compagno 1984, Holland 他 1993, Kotas 他 1995, Lessa 他 1998)。新生魚と幼魚は、成魚の生息域に行く前の 1 年から 2 年を、沿岸の、決まった子育てエリアに群れることが知られている。(Holland 他 1993)。北西および西中部大西洋では、カリフォルニア南部からフロリダ中部にかけての沿岸域が重要な子育て海域であると考えられている (Castro 1993)。南部ブラジルでは、メスは出産間近になると内海の子育てエリアに向かい (水深 2–10m、海底の水温 20–24° C)、春に出産する(11月–2月)(Dono 他 in prep., Vooren & Lamonaca 2003)。生まれた幼魚は沿岸と水深 100m の間あたりに留まる (Vooren 1997, Kotas 他 1998)。北部ブラジル(南緯 3° C) では、この種は他の海域で報告されているものよりも、出産時のサイズが小さく、かつ、繁殖力も低いようである (Lessa 他 1998)。

東太平洋の分布域では、分娩は 5 月から 7 月にかけて浅い子育て海域で行われると考えられる (Ruiz 他 2000, Torres-Huerta 1999)。カリフォルニア湾北部およびバハ カリフォルニア スルの太平洋岸は重要な分娩場と見られ、子育て海域である可能性も高い。

この種は胎生で卵黄嚢胎盤を持ち、機能するのは右側の卵巣だけである。台湾海域では、卵子はおよそ 10 か月かかるで発達し、最大直径でおおよそ 40-45mm になる。卵巣内の卵母細胞の数は 1 頭につき 40-50 にもなる (Chen 他 1988)。妊娠期間は 9-12 か月で春、夏に出産する。子宮内の胎児の数は 12-41 で毎年仔をなす。生まれるときの大きさは 31-57cm である (Castro 1983, Compagno 1984, Branstetter 1987, Chen 他 1988, Stevens & Lyle 1989, Oliveira 他 1991, Amorim 他 1994, White 他 2008)。新生児と幼魚は捕食される率が高く、捕食するのはおもに他のサメ類で、同種の成魚であることさえある。これがもっとも多い自然の死因であるようで (Clark 1971, Branstetter 1987, Holland 他 1993)、また、進化論的に、この種が他のサメ類に比べて多産であることの説明にもなろう。

成魚はおもに中程度の遠洋の魚やイカを食べる。

NPO 法人 野生生物保全論研究会(JWCS)

TEL/FAX : 03-5425-6323

URL:<http://www.jwcs.org>

